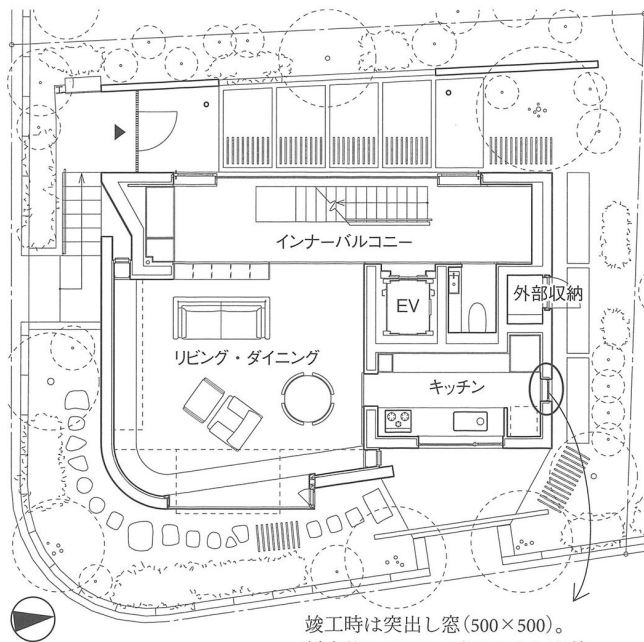


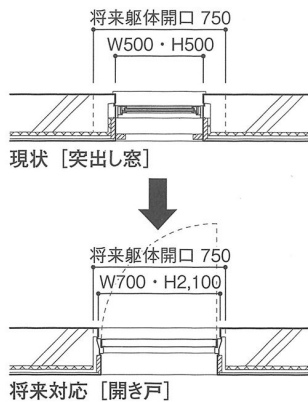
コンクリート壁に窓と出入り口、 2通りの配筋をしておく

緑と風と光の家 設計◎矢板久明+矢板直子(矢板建築設計研究所)

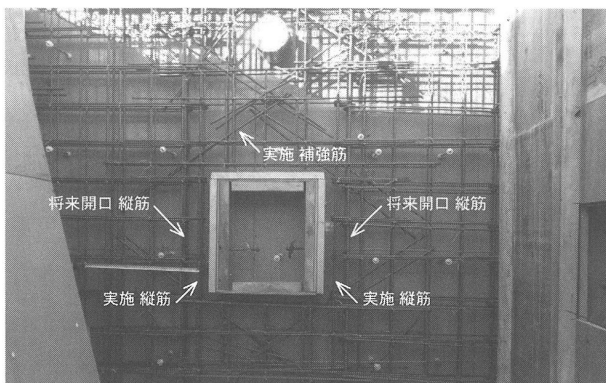
主要構造：RC壁式構造、階数：地下1階、地上2階、敷地面積：179.43㎡、建築面積：68.86㎡、延床面積：123.68㎡(緩和前の建築物全体では145.31㎡)
新築時建築主の年齢：50代前半、家族構成：夫婦、所在：東京都大田区、竣工：2014年、
写真：特記なきものは矢板建築設計研究所提供、*1 小川重雄撮影



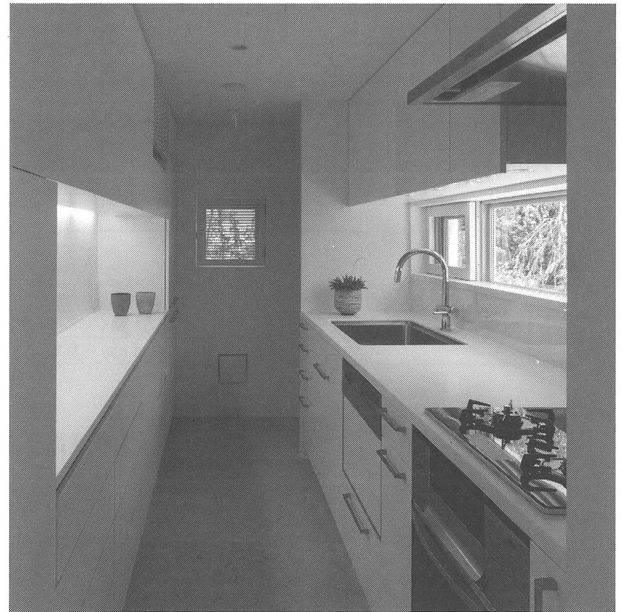
1階平面図 1/200



窓平面詳細図 1/50



窓開口の配筋と将来ドアにしたとき用の配筋を施しておく



*1

キッチンの横に勝手口が欲しいと要望されることは多い。あれば便利だが、そこに突っかけサンダルが見えてしまうことは、清潔かつ神聖な調理場にとってふさわしくはない。これは、私の師である水谷氏が修行した坂倉建築研究所での鉄則であったそうだ。このキッチンの奥に勝手口があるとダイニングからも見えてしまうので、建築主も、やはり美しくないという結論であった。しかしこの壁の向こうにはご実家のあった敷地が広がっており、将来増築という可能性もありうる。またご高齢になられたとき、どうしても近いところに入りが欲しくなることも想定された。そこで、当面は突出し窓にガラリをつけた通風窓を設けるにとどめながら、出入り口への改変にも備えておくことにした。

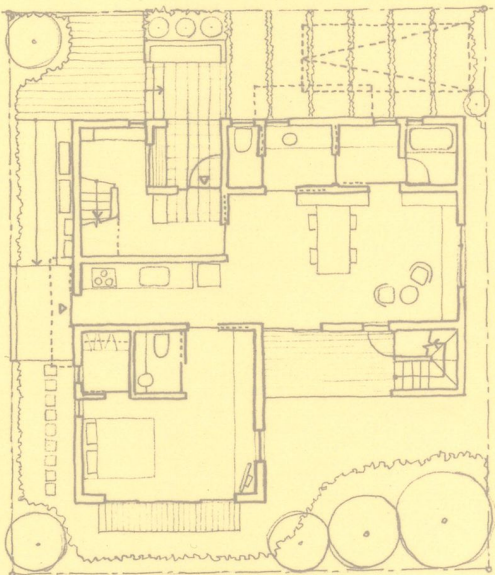
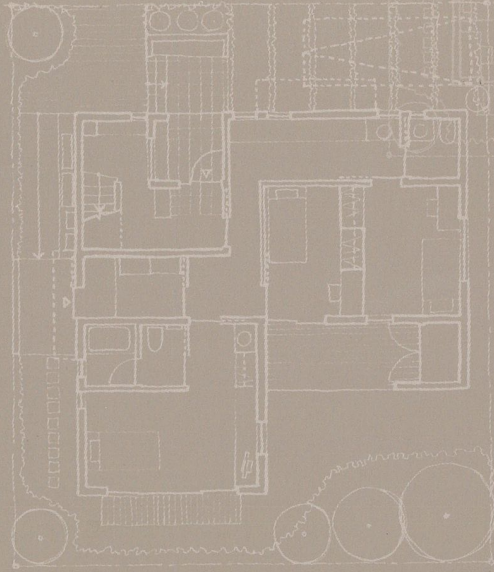
通常の窓としての開口補強鉄筋に加え、将来の出入り口用の開口補強鉄筋も配筋。構造計算もチェック済みである。開口を大きくできる範囲も、コンクリート表面に印している。

ディテール11月号別冊

時間を織り込む

住宅設計術

彰国社編



30代で住宅を建てる人たちへ

日本人は50年前より
20余年も長生きするのに、
住宅は平均寿命
26年のままでいい？

彰国社